

令和7年度 福島市写真美術館 企画展

彼らは無垢で、
清纯で、
玲瓏であつた。

戦後80年 真継不二夫作品展 海軍兵学校

令和7年7月19日(土)～8月17日(日)

午前9時～午後4時30分 (入館は午後4時まで)

会場／福島市写真美術館(花の写真館)

観覧料／一般 300円 高校生以下 100円

※未就学児無料

ギャラリートーク

写真家・真継不二夫 戦時下を見つめたレンズ

【日時】7月20日(日) 13時30分～15時

【会場】2階「多目的室」

【講師】日本カメラ財団 文化部 櫻井由理氏

【内容】写真家・真継不二夫について、1920年～1940年代の写真史と合わせて解説

【参加料】観覧料のみ

事前申込制・先着30名

【申込方法】HP申込フォーム
もしくはお電話で

申込
フォームは
こちら



主催／福島市写真美術館(公益財団法人 福島市振興公社)・福島市

協力／一般財団法人 日本カメラ財団(JCII)

後援／福島民報社・福島民友新聞社・福島テレビ・テレビユー福島・福島中央テレビ・福島放送
ラジオ福島・福島コミュニティ放送FMポコ

連絡先

福島市写真美術館(花の写真館)
〒960-8002 福島県福島市森合町11番36号
TEL 024(563)4990

フリーのカメラマンとして活躍していた真継氏は、太平洋戦争中の昭和17年(1942年)から昭和20年(1945年)の間、海軍特別報道班員として広島県・江田島の海軍兵学校を撮影しました。

おだやかな瀬戸内海と明るい陽光のもとで厳しい訓練を受ける生徒達の真摯な姿には、研ぎ澄まされた緊張感と清々しさが溢れています。青春真っ盛りの彼らは写真の中で屈託のない笑顔を見せていますが、特別攻撃隊として常に死の覚悟を抱いていた胸のうちは量り知れないものがあり、戦後80年となる現在でも褪せることのない様々な思いを感じさせます。

また、ネガフィルム自体も真継氏が地中に深く埋めて保存していたことにより、自宅が戦火によって灰燼と歸したり、その後進駐軍の家宅捜査を受けるなど、戦争に翻弄されながらも奇跡的に生きのびた貴重な資料です。

今回の作品展では、生徒達の垣間見せるみずみずしい表情、降り注ぐ陽差しの中の厳しい訓練風景など太平洋戦争中の海軍兵学校の生活を切り取った作品約90点(全作品モノクロ)を展示します。



真継 不二夫(まつぎ ふじお)

1903年京都・亀岡に生まれる。1931年婦女界社写真部長に就任。のちフリーランスに転身。
1932年「ライカ撮影全景」「芸術写真作画の実際」「風景写真の写し方」(玄光社)出版。
1933年「アマチュア人物写真入門」「アマチュア写真の修整」(光大社)出版。
1942年海軍特別報道班員として江田島の海軍兵学校に滞在し、海軍予備学生、海兵団等を撮影・取材する。
1943年写真集「海軍兵学校」(番町書房)出版。1964年大泉書店より再版される。
戦後は朝日新聞社より海軍三部作の写真集を刊行する他、ヌード写真集「美の生態」が話題になった。
1971年特攻隊の遺書をまとめた「海軍特攻隊の遺書」(KKベストセラーズ社)を出版、ベストセラーとなる。
1984年逝去、享年81歳。



福島市写真美術館 (通称: 花の写真館)



「花」: 秋山庄太郎 書

〒960-8002 福島県福島市森合町11番36号

TEL 024(563)4990



公共交通機関をご利用の方は

- 路線バス【乗車場所】福島駅東口停留所(9番ポール)
コース①:「市内循環もりん2コース」乗車→「福高前」下車(約5分)
コース②:「市内循環もりん1コース」乗車→「福高前」下車(約17分)
※上記から東へ約1分

お車をご利用の方は

- 東北自動車飯坂インターから市街方面、国道13号を経由 約15分
- 花の写真館駐車場 13台 ※おもいやり駐車場含む
- 臨時駐車場(保健福祉センター第2駐車場)

お車の駐車台数に限りがありますので、乗合せ公共交通機関のご利用にご協力ください。

- MOMORINシェアサイクル

こちらもご利用ください。

詳しくは二次元コードを読み取ってホームページをご覧ください。

- 福島駅東口より徒歩 約15分



アクセスマップ

